

道徳の時間学習指導案

世羅町立甲山中学校
指導者

- 1 日 時 平成 30 年 11 月 15 日 (木) 第 4 校時
- 2 学 年 第 3 学年 A 組 39 名 (男子 21 名, 女子 18 名)
- 3 場 所 A 棟 2 階 3 年 A 組 教室
- 4 主 題 名 法やきまりを守る【内容項目 C— (10) 遵法精神, 公德心】
- 5 ねらい 二通の手紙によって, 元さんが考えたことを通して, 法やきまりの意義を理解し, 自らきまりを遵守し, 秩序と規律ある社会を実現しようとする道徳的実践意欲を育てる。
- 6 教材名 「二通の手紙」 (出典 文部科学省『私たちの道徳』)

7 主題設定の理由

○主題観・価値観

本主題は、『中学校学習指導要領特別の教科 道徳編』の C— (10) 「法やきまりの意義を理解し, それらを進んで守るとともに, そのよりよい在り方について考え, 自他の権利を大切にし, 義務を果たして, 規律ある安定した社会の実現に努めること。」に基づくものである。

中学生期は, 社会の中で生きているという自覚も深まり, 法やきまりについてその意義を一層理解することができるようになる反面, 法やきまりは自分たちを拘束するものとして反発したり, 「少くならぬ」という自分本位の考えを優先してしまい, きまりを守れない生徒も少なくな

い。

そこで, 法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり, それを遵守することの大切さについての自覚を促したい。また, 自他の権利を大切にし, 義務を果たすことで, 互いの自由意思が尊重され, 結果として規律ある安定した社会が実現することも理解した上で, 社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする道徳的実践意欲を育てたいと考え, 本主題を設定した。

○生徒観

本学級の生徒は, これまで授業や学級活動, 学校行事, 部活動などを通して, 集団生活をするためにはルールやマナーを守ることが大切であることを学んできた。6 月に実施した「道徳教育改善・充実」に係る意識調査では, 「学校のきまりを守っている」と肯定的に回答した生徒の割合は, 95%であった。このことから, きまりを守ろうとする意識が高いことがわかる。一方, 学級で行ったアンケートにおいて「きまりやルールは守らなければいけないと分かっているけど『少くならぬ』『一人くらいしなくても大丈夫』という気持ちがある」と回答した生徒の割合は 56%であった。きまりを守らなければならないという気持ちがありながら「少くならぬ」

という気持ちを持っている生徒が半数以上いることがわかった。その中には、自分本位の考えを優先し、学校のきまりを守ることができない生徒も見られる。また、自分本位な言動で集団と協調することに課題のある生徒に対して、「勝手気ままなことは許さない」という毅然とした態度で注意ができない学級の雰囲気があり、きまりやルールによって、個人の安全や安心した生活を実現させることができるという認識が低い実態がある。

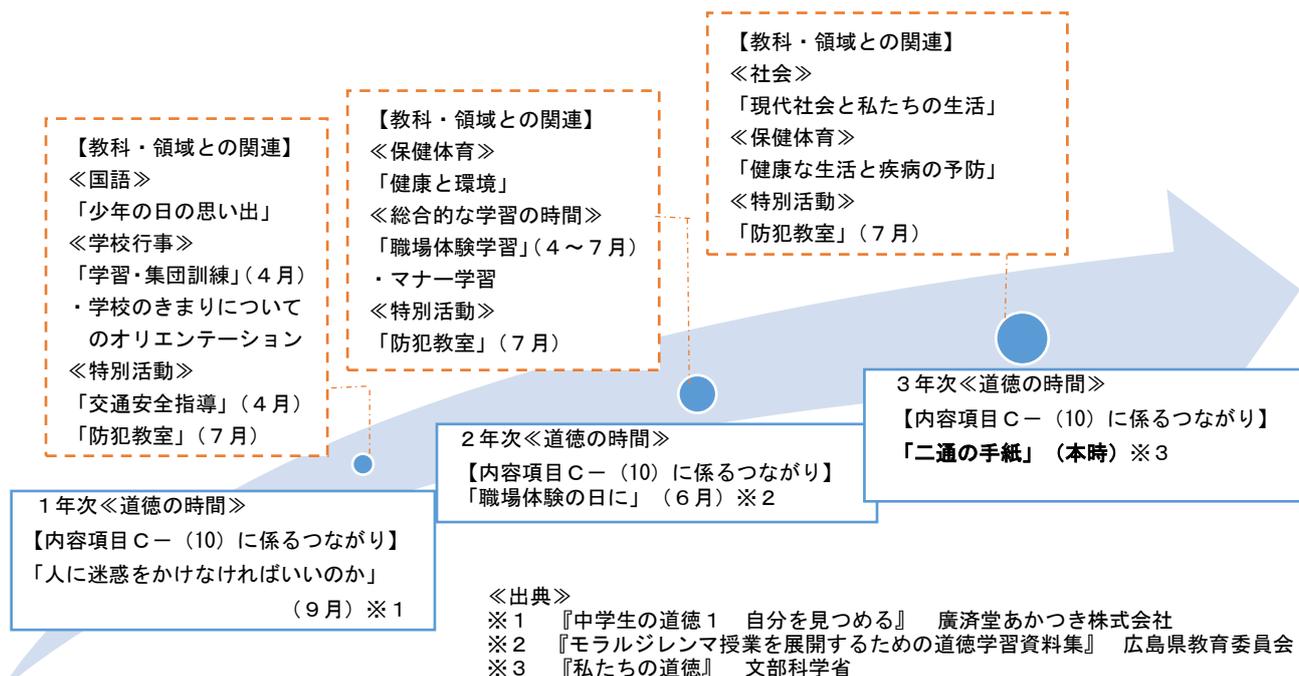
○教材観・指導観

本教材は、動物園の入園係をしていた元さんの同僚であった佐々木が、入園終了時刻を過ぎたにもかかわらず、客の入園を許可しようとしていた後輩の職員に、過去にあった元さんの出来事の話をするという内容である。幼い姉弟の思いに同情した元さんは、動物園の規則を破って入園を許したために、懲戒処分となった。元さんに届いた母親からの「感謝の手紙」と動物園からの「懲戒処分の通告書」の「二通の手紙」は、生徒にとって心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考える機会を与えてくれる。

指導に当たっては、「懲戒処分を受け入れることができない・できる」の発問に対して、意志表示コップで立場を明確にさせて、意見交換をさせる。元さんの視点に立ち、自分ならどのように行動するかを考えさせることを通して、元さんの心情に迫っていく。本時では、職場から懲戒処分の通知を渡された元さんが、「晴れ晴れとした表情」で職場を去っていく場面を中心発問として扱う。元さんの思いに共感しづらい生徒もいることが予想されるが、元さんは、「少しくらいなら」という自分の中に甘さがあったことを考えさせられ、改めて規則の意義を理解し、処分を受け入れたことを補助発問やペア学習、全体交流を通して理解させ、深く考えさせたい。そして、きまりの意義やきまりを遵守することの大切さ、きまりを守ることで規律ある安定した社会が実現することを理解させ、社会の秩序と規律を自ら高めていこうする意欲につなげていきたい。

8 指導のポイント

(1) 本教材の3年間を通しての学習活動のつながり



(2) かかわり合う場の充実にむけたポイント

㊦ じん（個人）で考えを持つ	場面絵・ワークシート・意志表示コップの活用や個人思考の場の設定により、一人一人が考えを深めることができるようにする。
りゆ ㊦（理由）を整理して伝える	ペア学習を通して、「自分が元さんだったら、懲戒処分の通知を受け入れることができるか」について考え、その理由とともに、相手に伝えさせる。
さま ㊦（様々）な角度から考える	中心発問の「なぜ、元さんは、晴れ晴れした顔で職場を去ることができたのだろう。」に、補助発問を加えて、きまりの意義について考えさせる。
じぶん ㊦（自分）ごととして考える	終末で、自分の考えをまとめさせ、全体で共有し、道徳的価値について考えを深めさせる。

9 評価の視点

【視点1】多面的・多角的な見方へと発展しているか。

- ・きまりの意義について、元さんや佐々木の立場の視点からとらえようとしている。

【視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

- ・元さんの視点に立ち、なぜきまりを守るのか、どのように行動すればよいか、自分自身との関りのなかで考えようとしている。

10 準備物 教材，発問短冊，場面絵，意志表示コップ，ワークシート

11 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き 主な発問 (○) 中心発問 (◎) 予想される生徒の反応 (・)	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 課題意識を持つ。	○学校生活の中で、いけないと思いながら、やってしまったことがありますか。それは、どんなことですか。 ・ヘルメットを被らず自転車通学をしてしまった。	○事前アンケートを活用しながら、本時の主題への関心・意欲を高め、課題意識を持たせる。
展開	2 資料を読む。 3 元さんの人物像をとらえる。	○元さんはどんな人ですか。 ・入園係 ・優しい ・思いやりがある ・勤勉で真面目	○資料を範読する。 ○人物像を大まかにとらえることで内容の確認をさせる。
	4 元さんの行動と意思を考える。	○元さんは、なぜ、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろう。 ・毎日来ていた姉弟だった。 ・弟を思う姉の気持ちに心を動かされた。 ・誕生日なので特別に入れてあげたかった。	○ルール違反であることを知っていながら、入園させた元さんの気持ちをとらえさせる。

展 開	《かかわり合う場の充実》	
	<p>【個人思考→ペア学習→全体交流】</p> <p>5 元さんの思いを考える。</p> <p>【個人思考→グループ活動→全体交流】</p>	<p>○あなたが元さんだったら、懲戒処分の通知を受け入れることができますか。</p> <p>できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉弟に喜んでもらえた。 ・母親に感謝された。 ・入園の結果、何事もなかった。 ・定年後も、働かせてもらうことが決まっている。 <p>できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを破ったので仕方ない。 ・他の職員の手本にならない。 ・今後、同じようなことがあってはいけない。 <p>◎なぜ、元さんは、晴れ晴れした顔で職場を去ることができたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園させたのは、間違いだったとわかった。 ・自分の判断の誤りに気づいて、処分に納得した。 ・大切なことに気づくことができた。 ・姉弟や母親を喜ばせることができて、良かった。 ・2人の子どもが無事で良かった。 <p>補 もし、姉弟に大きなケガや死にいたるようなことがあったら、どうなっていただろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親から感謝の手紙なんかもらえない。 ・動物園や元さんの責任を問われたかもしれない。 <p>補 佐々木が「駄目だといったら駄目だ」と山田に言ったのは、どんな気持ちからだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元さんの教訓（教え）を思い出した。 ・きまりは、どんなことがあっても絶対に守らなくてはならない。 ・きまりを守ることが、安全につながる。

終末	6 学習のまとめをする。	<p>○今日の学習から、より考えが深まったり、考えが変わったことを書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、時と場合によって、きまりを守らなくてもいいと思ったけど、きまりは自分や他の人の生活や命を守るためのものだから、今後は自分のため、みんなのためにきまりを守っていききたい。 ・「少しくらいなら」と思っていたが、きまりやルールは、自分だけでなくみんなが安全で安心して生活するためにあることがわかった。これからは、しっかりきまりを守って生活していききたい。 	<p>【視点2】</p> <p>元さんの視点に立ち、なぜきまりを守るのか、どのように行動すればよいか、自分自身との関わりの中で考えようとしている。</p> <p>☆法やきまりの意義を理解し、自らきまりを遵守し、秩序と規律ある社会を実現しようと考えている。</p>
----	--------------	---	---

12 板書計画

二通の手紙

元さん

- ・ 入園係
- ・ 思いやりがある
- ・ 優しい
- ・ 真面目
- ・ 勤勉

○あなたが元さんだったら、懲戒処分のお知らせを受け入れることができますか。

《できない》

- ・ 姉弟に喜んでもらえた。
- ・ 母に感謝された。
- ・ 入園の結果、何事もなかった。
- ・ 定年後も、認められ働かせてもらえる。

《できる》

- ・ きまりを破ったので、仕方ない。
- ・ 他の職員の手本にならない。
- ・ 今後、同じことがあってはいけない。

○なぜ、元さんは、晴れ晴れした顔で職場を去ることができたのだろう。

- ・ 入園させたのは、間違いだったとわかった。
- ・ 自分の判断の誤りに気づいて、処分に納得した。
- ・ 大切なことに気づいた。
- ・ 姉弟や母親を喜ばせることができ、良かった。
- ・ 二人の子供が無事で良かった。

場面絵

場面絵

場面絵

○もし、姉弟に何かあったら・・・

- ・ 母親から感謝の手紙なんてもらえない。
- ・ 動物園や元さんの責任を問われたかもしれない。

場面絵